

Vol.34
2018 WINTER

ISSUE

[繋ぐ]

愛でる Special Issue:

願いと真心を結ぶ 飾りひもも「水引」

先どる 人生の記録=レシートに描く
VIKIさんの「レシートアート」

深める+ 循環型社会実現に向けた
— FUKAMERU PLUS — 「むさし野紙業」の挑戦



願いと真心を結ぶ 飾りひも「水引」

祝儀袋や贈りものの包み紙などにかける飾りひも。

「水引」は、相手を敬い幸せを願う気持ちと、

日本独自の礼儀作法から生まれた伝統工芸であり、

結納の品や、新年を迎える飾りなど、

私たち日本人の暮らしのなかに深く根づいています。

内野敏子さんは、伝統的な“結び”の技法を守りながら

新しい表現の可能性を探求し続ける水引工芸家。

そのきりりと美しい結びには、

人との縁を大切にしたいと願う、内野さんの思いがありました。

愛でる P01

願いと真心を結ぶ
飾りひも「水引」

特別企画 P06

TSUNAGUアーカイブス
ご紹介した作家たちの「いま」を
最新情報とともにレポート

伝える P07

媒酌人である恩人から届いた
温もりのある1通の案内状

先どる P09

人生の記録=レシートに描く
VIKIさんの「レシートアート」

出会う P11

社員の成長を陰で支える
人事担当者の向上心

深める+ P13

循環型社会実現に向けた
「むさし野紙業」の挑戦

深める P14

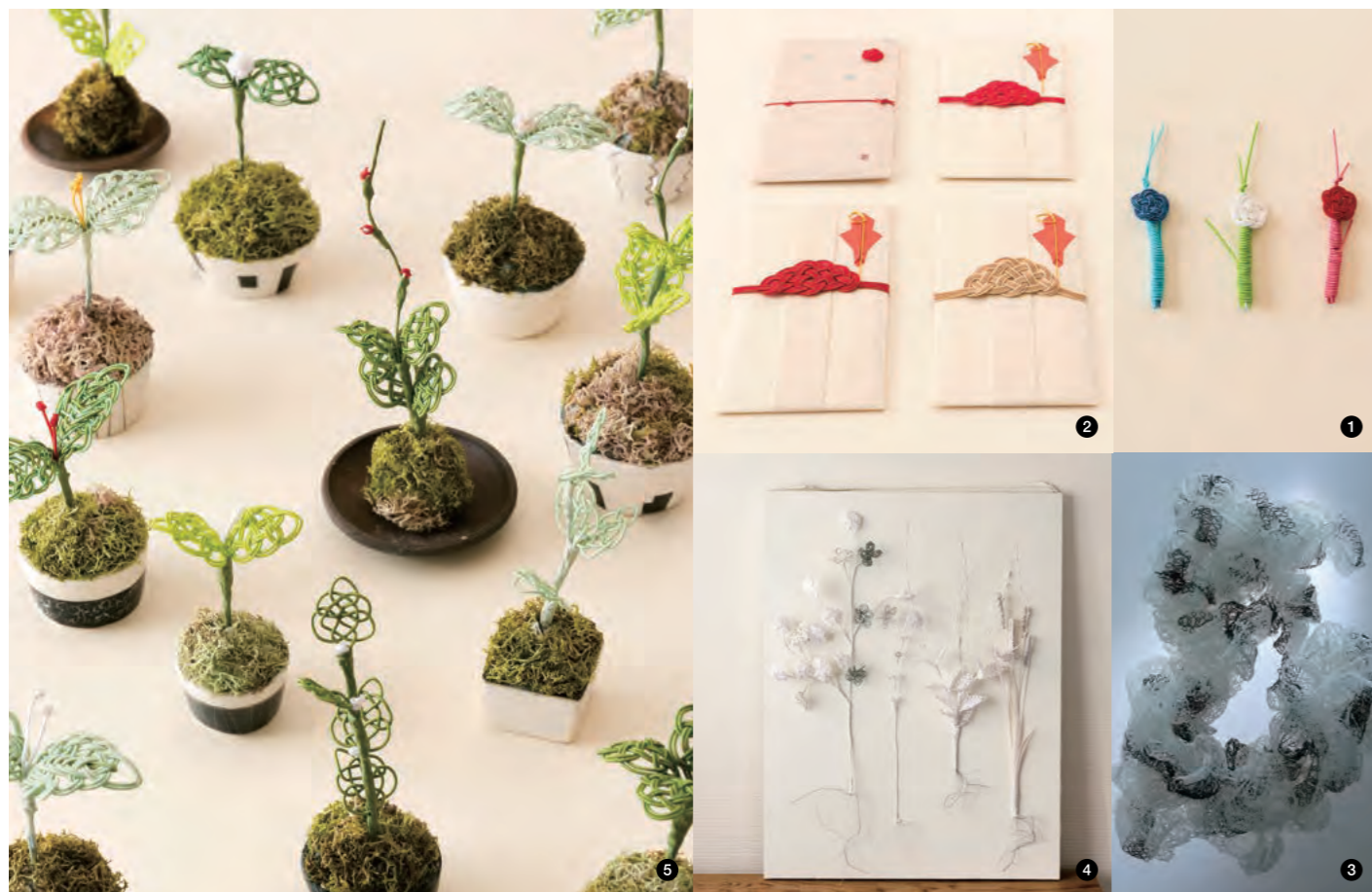
KPPの最新ニュースを
キャッチアップ

訪ねる P15

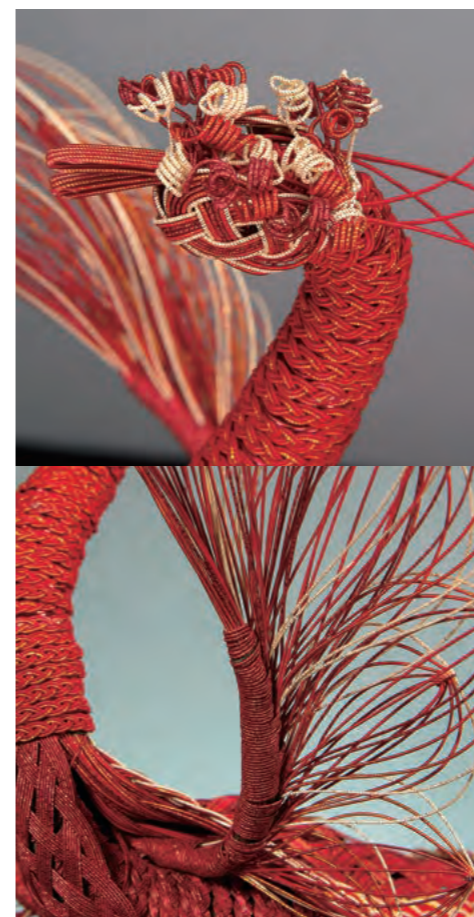
紙の魅力を体感できる
「ペーパーイベント・カレンダー」

作る 付録

ワンダフルな1年を祈願!
「戌年カレンダー」



©Masaki Yamamoto (③のみ)



©kaminote



水引作品の制作に使用する道具。クラフト用の「ハサミ」や「ペンチ」、水引をくるくると巻くための「チリ棒」、穴あけに使用する「目打ち」など。



内野さんのアトリエにストックされている水引は、約200種類。光沢や強度、素材の特性を理解したうえで、作品に最適なものを選定する。

①正月や初春のテーブルウェアにぴったりの「かさねの色目の花箸置き」(全120色)。②手漉きの雁皮紙を使った格調高い祝儀袋(札挟み、内封筒つき)。③カゴなど、編み込みの技法を生かした「バスケットリ」の表現作品。④水引の「結び」の技法を用いて植物を表現した作品「植物採集」。色を省くことで造形の美しさを追求した。⑤手のひらサイズの器に粘土と乾燥した苔を入れた「豆盆栽」。植物はすべて、水引の技法によるもの。
※①②はオンラインショップ「しろつめ」で購入できます。
ONLINESHOP : shirotsume.com/shirotsume-Direct

独自の感性と匠の技を持つ日本人作家の作品を集めた人気の展覧会『神の手・ニッポン展2』に出展した水引立体作品「鳳凰」(2016年)。高さ約1メートルの作品に約1,000本の水引を使用した。
東京都指定有形文化財「百段階」十畝の間にて展示



水引工芸家

内野 敏子さん

1963年、熊本生まれ。武蔵野美術短期大学卒業。広告デザイン、建築設計の仕事を経たのち、1995年より水引工芸、2000年よりバスケットリをはじめ、「普段の暮らしに水引を」をテーマにオリジナル作品の制作・販売、個展開催、水引教室主宰(熊本県熊本市)、全国各地でのワークショップ開催と精力的な活動を続ける。2005年、ご主人とともに熊本に戻り、生活道具の店「しろつめ」をオープン。2016年には『神の手・ニッポン展2』のメンバーに選ばれ、東京・目黒雅叙園、名古屋・テレビアホールにて作品を展示し好評を博す。写真は、愛犬のポロンちゃんとともに。

HP: uchinotoshiko.web.fc2.com

「教室に通いはじめたのは軽い気持ちだったんですけど、水引の美しさに惹かれる潜在意識があったのかも、かもしれません。途中でくじけそうにもなりましたが、尊敬する知人に「続けていたらいいいことあるわよ」と言ってもらって」と当時を振り返ります。その後、教室で2年間基礎を習得したのち独学で水引を学び、98年には地元熊本で初めての個展を開催。そのギャラリーのオーナーとの出会いもまた、内野さんの作品づくりに大きな影響を与えたそうです。「そのオーナーは素晴らしい審美眼を持った方で、作品を観ただけで心の迷い見透かされてしまうんです。だからいつも、その方はどう思うかな」という思いがあります。私の作品は単色や2色など色を絞ったものが多いのですが、色の華やかさに頼らず造形の美しさを追求することの大切さも、その方から教えていただきました。これからもそのオーナーや私の作品を買っていただくお客さまに対して、恥ずかしくない作品を作り続けていきたいですね」。内野さんはたくさんの方のつながりを大切に思い、縁を結ぶことで、水引工芸家としての土台を築くことになったのです。

水引は、細長く切った紙を漉った紙繰りに水糊を引いて乾かし固めたもの。紙の代わりに人工の絹糸を巻いたものや、色つきの紙繰りにラメ糸の入ったフィルムが巻かれたものなど、色や材質、硬さや光沢などたくさん種類があります。「水引は紙を漉っているからこそ適度なコシがある。宙に持ち上げた状態で編んでいくものなので、他の素材ではできませんね」と内野さん。また祝儀袋を商品化する際には、水引を掛ける包み紙にこだわったそうです。「祝儀袋には普通、檀紙を使いますが、どうしても別の紙で作りたいと思い、いろいろな和紙屋さんをまわって紙を探しました。最終的に小津和紙(和紙専門店・東京日本橋)さんで、光沢のある生成り色で、薄いけど強度がある良い和紙屋さんに出合い、今でもこの和紙を使って祝儀袋を作っています」。妥協することなく選び抜いた包みと、それをきりりと結んだ水引。内野さんの祝儀袋は相手の幸せを願う気持ちに美しい付加価値をプラスするのです。

「水引」とは、冠婚葬祭など儀礼的な場で渡す、紙に包んだ贈りものに掛ける飾りひものこと。祝儀袋や不祝儀袋はもちろん、単体でもお正月飾りや結納品、結婚式の会場インテリアなどに用いられています。その歴史は古く、飛鳥時代に中国からの返礼品の箱が紅白の麻糸でくくられていたのが変化したものと言われ、室町時代には素材が麻から紙へ、江戸時代には文化の発展と礼儀作法の確立に合わせて、広く一般に広まったとされています。また「水引」は、色や本数、結び方やかたちなど各々に意味があり、時と場合によって使い分けられます。地域によって違いはありますが、結納や結婚の慶事には赤白や金銀の水引を五行陰陽説で陽数とされる5本に束ね、二度だけで繰り返さない」という意味を込めてしっかりと固く結ぶ「結び切り」という結び方にするのが一般的です。

「水引には、編むほどに表情を変えていく楽しさと美しさがあるんです。そう話すのは、水引の伝統的な手法を用いた幅広い表現活動続ける水引工芸家・内野敏子さん。箸置きなどのテーブルウェア、季節のオーナメントといった暮らしの雑貨から、高さ1メートルにもおよぶ立体作品に至るまで、内野さんの作品の持つ凛とした造形美と、日本人の美意識に響く洗練性は、多くの人々を魅了し続けています。「私の水引作品は、日本古来のしきたりや礼法に基づいて作っています。結び」にはそれぞれに意味があるので、私の作品を観た方がお二人でも嫌な気持ちになるのは不本意。だからこそ今でも正しい知識を得るために、古い文献などで勉強を続けています。十分に知識を持ったうえで型を破るのは説明ができますが、歴史を知らず、思うがままに勢いで作品を作るのは何か違うと思うんです」と内野さん。水引は、先人が築き上げた伝統工芸であり、相手を敬う気持ちを贈りものに添えるために生まれたもの。内野さんの作品は、日本人の美徳をも表現しているのです。

「子どもの頃から祝儀袋や料理にあしらわれた水引が気になり、外して遊んでいた」という内野さん。大学で美術を学び、広告デザイン、建築設計の仕事を経たのち、ひよんなことから水引工芸教室に参加したことをきっかけに、水引工芸家としての道を歩むことになったそうです。

アメリカ4都市での巡回展示を展開するなど
“生命の輝き”を表現した作品を国内外で発表



①②③④⑤ To Hear Your Footsteps@Museum of Art and History (米・カリフォルニア州ランカスター)での展示
⑥同展示会に伴い開催されたワークショップ風景 / ⑦Matt Construction Downtown LA Office (米・カリフォルニア州ロサンゼルス)のオープニングイベント展示風景



造形作家
一ツ山 チエ HITOTSUYAMA STUDIO

DATA TSUNAGU掲載 | 2016年夏号 (Vol.28)
WEB | hitotsuyamastudio.com/



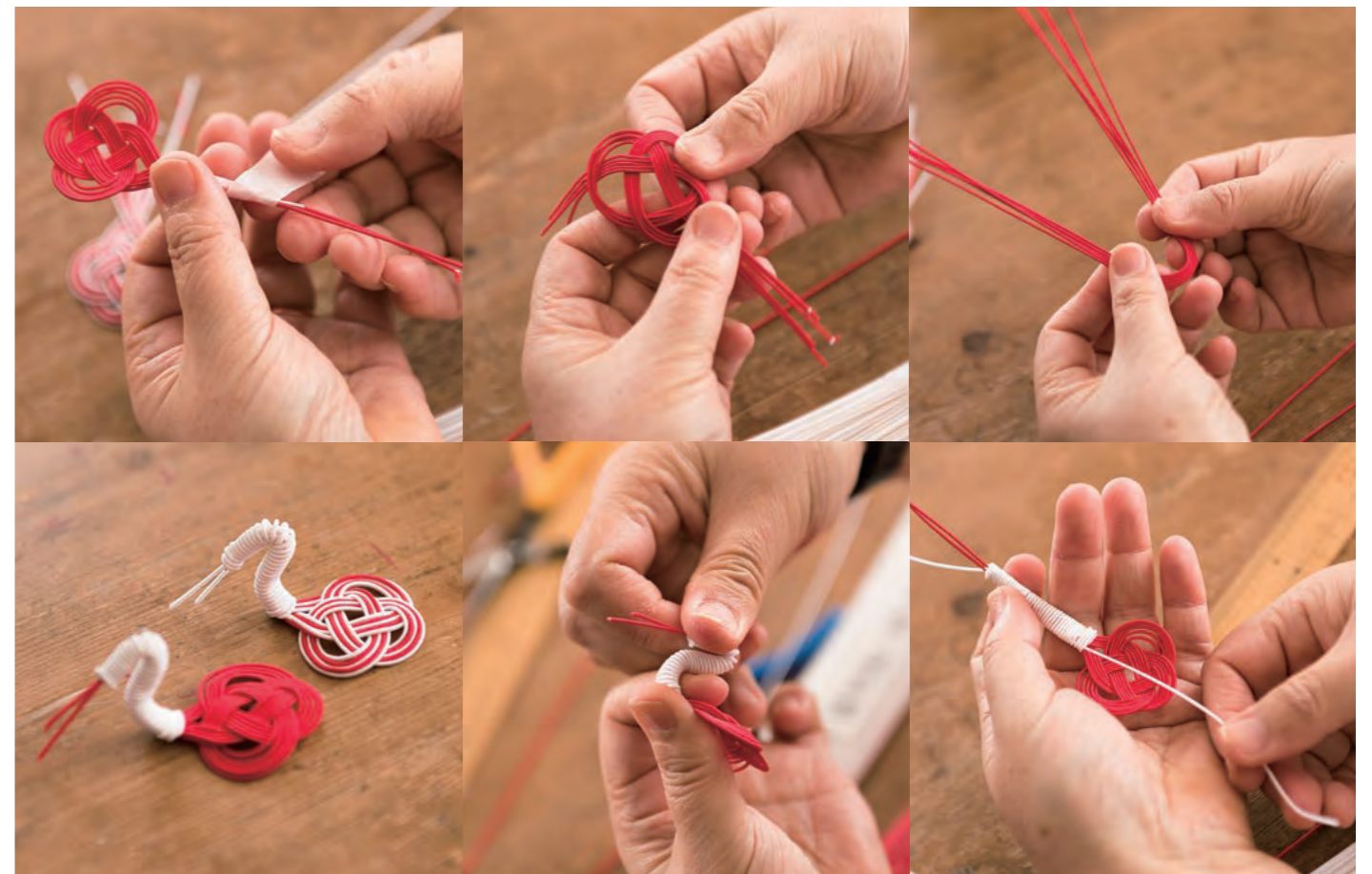
不要になった新聞紙に生命の息吹を吹き込み、躍動感あふれる野生動物の姿を表現する造形作家・一ツ山チエさん。新聞紙を“こより”状にした1本の紙の紐をぐるぐると重ねて創る作品は、紙であることを感じさせない圧倒的な重量感があり、実物大のリアリティーを追求した造形技術、自然に生きるたくましさど豊かな感情を力強く表現した作品として、国内外のアートシーンで高い評価を受けています。本誌にて紹介させていただいた2016年夏以降は、新境地を開くために渡米し、カリフォルニアでの創作活動をはじめ、美術館、画廊などの4都市での巡回展示、ワークショップなど精力的な活動を展開。地元の人たちと交流を図り、素材提供などの協力を得て創りあげた作品群は、画廊やアートフェアなどに出版されています。また、2017年からは日本国内での制作を中心に、国内外のアートフェアや企業イベントなどに出版。今夏には東京・調布市で展覧会が開かれるなど、新たなチャレンジを続ける一ツ山さん。今後の活動からますます目が離せません。

2018夏の展覧会
■会場: 調布市文化会館(東京都調布市小島町2-33-1)
■会期: 2018/7/7(土)~8/26(日)

TOPIC
新作を携え、2018年1月から
当社「TSUNAGU GALLERY」に登場

1月から当社本社にて、一ツ山さんの新作を展示した第6回「TSUNAGU GALLERY」が開催されます。生命力あふれる等身大の迫力を、ぜひその目でお確かめください。

「TSUNAGU GALLERY vol.6」
■会場: 国際紙パルプ商事本社1Fエントランス
■会期: 2018/1/22(月)~3/23(金)
■入場料: 無料



■「祝い箸置き」ができるまで
5本の水引を1組として、すべての結びの基本となる「あわじ結び」に、地巻ワイヤーを添えフロールテープを巻いたのち、テープが見えなくなるところまで巻き上げます。さらに首に当たる部分を曲げ、くちばし部分を斜めにカットしたら、鶴の祝い箸置きが完成!

INFORMATION

内野敏子さんの
著書3冊が発売中!

- 「水引 基本の結びと暮らしの雑貨」(文化出版局)
- 「しあわせを結ぶ 贈る、飾る、水引のもの」(PHP研究所)
- 「折形 基本の包みと暮らしの贈りもの」(文化出版局)



「水引」の技法を自宅で学べる
通信講座が開講中!

■日本ヴォーグ社の通信講座(テナライ)
school.nihonvogue.co.jp/tsushin/
tenarai/wa/uchinotoshiko.html

上/2012年の夏、仮設住宅で暮らす被災者の方へ贈った小さな七夕飾り下 / 2012年春に開催したワークショップの様。



撮影:遊牧カフェ

2005年、ご主人とともに故郷である熊本に移り住んだ内野さん。個展に出品する作品制作のほか、水引をはじめとする生活道具を扱う実店舗の経営、メディアの取材対応など当時の生活は多忙を極め、水引の仕事が続くか悩んでいた2011年、未曾有の大震災が発生します。「直後から水や食料、キャリーケースなどの物資を送っていましたが、手持ち無沙汰とおっしゃる方が増えたこともあって、1年後の3月、宮城県山元町の仮設住宅で水引のワークショップをやらせてもらったんです。そのとき受講した方のなかには、「死んだ方がよかったです」とおっしゃっていた方がいたんですけど、水引の楽しさに触れ、その日をきっかけに独学で勉強されて、水引作品を作るようになった。私が学んできた水引で一人でも笑顔になつてくださる方がいるのであればがんばろうと心から思えた経験でした」。

その後も東北の人々との交流が続くなか、2016年4月に発生した熊本地震によって、今度は内野さんご自身が被災することとなります。「まさかという思いでしたが、今度は東北の方たちをはじめ、たくさんの方から支援していただきました。自分自身が被災し、支援していただいたことで初めて、被災者の方が、申し訳ない」と気を遣われていることがよくわかりましたね。ご支援してくださったみなさんには、素直に感謝するしかありません。内野さんが水引で結んだ縁は、決して解けることはありません。

内野さんの活動のテーマは、「普段の暮らしに水引を取り入れてもらう」こと。水引の裾野を広げその魅力を広めるために、展示会出展やワークショップ開催など、精力的な活動を続けています。「私を持っているものはすべて、いろんな方から学んできたこと。だからこそ出し惜しみすることなくすべてをシェアするようにしています。一人でも多くの人が実際に水引に触れる機会をつくりたいですね」。伝統に敬意を払い、水引の奥深い魅力を伝える内野さん。その力強い思いと活動は、これからもたくさんの方の心を結び続けていきます。

「手紙」は語る

植村鞆音

人間は表現する動物だというのが、手紙は人間の表現のなかでもっとも深く高貴なものだと思う。手紙は手書きがいい。眼光紙背に徹すれば、書き手の人となりが見えてくる。

第十二回 池島信平【後編】

大学に通うため上京してからのわたしは、人生の節目節目でいつも池島さんのお世話になった。ご本人にそんな意識はなかったろうが、池島さんはわたしの大きな後见人だった。

池島さんが文藝春秋に入社したのは昭和八年で、その後六年間「話」の編集をされたと聞く。八年秋からは伯父・直木三十五の「死までを語る」が「話」に連載されているし、そもそも直木は文藝春秋社の社友のひとりだったわけだし、父は五中（東京府立第五中学校。現在の東京都立小石川中等教育学校）で池島さんの教師だった。そんな縁を池島さんはいせつにしてくださいただと思う。

東京で下宿生活を送るようになった直後、先に上京していた姉に連れられ、わたしは目白の池島邸に挨拶に行った。越後弁を隠そうとされない奥さま、池島さん似の三人のお嬢さん。たしか、名前が晴子、明子、照子、と違っていずれも太陽に關係の深いものだった。なによりも明るさを愛した池島さんに相応しい命名だと思う。

午前中お宅に何うと、お昼には近くの中華料理屋から「洗面器のようにおおきなどんぶり」（ご本人の表現）に入った汁そばが届く。それを食べ終わると池島

に見切ることを決め、池島さんに相談にいった。

「おもしろそうじゃないか」。わたしの訴えを聞いて池島さんは笑いがらいつた。

「オレならやってみるがね」

と口ではいいながら、池島さんはわたしのわがままを通すため、当時「サン・アド」の重役だった開高健さんを紹介してくださいたり、テレビ東京（当時、東京12チャンネル）の役員に入社のための推薦状を書いてくださったりした。

そんなことでテレビ東京に入社したのだが、数年して池島さんとの最初にして最後の仕事が終わってきた。「人に歴史あり」という番組の初回のメインゲストに池島信平さん（賞を主宰している日本文学振興会 理事長）を招き、信平さんをタシにして生存する芥川・直木賞作家をスタジオに総動員して新番組を盛りあげようとしたのである。当時、編成というセクションにいたわたしに池島さんへの



いけ しま しん べい
池島 信平

編集者（文藝春秋 元社長）
1909-1973

東京都文京区出身。戦後の雑誌文化を支えた編集者。東京府立第五中から旧制新潟高等学校を経て、東京帝国文学部を卒業。文藝春秋社初の公募入社試験に合格し、入社後は雑誌「話」や「現地報告」の編集に携わり、1944年に編集長に。1966年には同社第3代社長に就任。著作に『編集者の発言』『歴史好き』など。日本文学振興会理事長も務めた。

さんはわたしを家族に預け街に出かけていった。街を歩いて世の流れや庶民の息吹に触れるのが編集者の心得のひとつと聞いたような気がする。わたしは池島さんに最初にお願ひしたのは就職のバックアップだった。典型的なモラトリアム人間であるわたしは、とくに就職したい職場のあてもなく、友人たちがジャーナリストを目指しているのを真似て文藝春秋をはじめ数社の受験手続きをすませたが、最初に受けた映画会社に受かったので、直ちに内定を受け入れた。映画会社に籍をおけば、きれいな女優さんと恋でもできそうだという邪な思惑だけで。

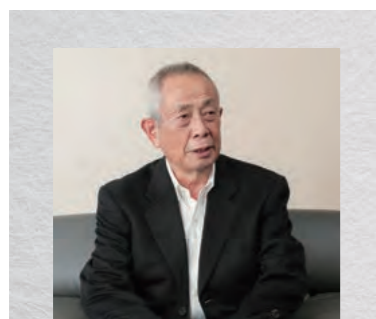
わたしは、芸術職としてその映画会社に入った。監督か脚本家かプロデューサーになるコースで、わたしはプロデューサーを志望した。プロデューサーになるためには製作の進行助手を経験しなければならぬ。進行助手を数年続けると家が建つというもっぱらの噂だった。下宿暮らしのわたしは家がほしかった。ただ、しばらくして、わたしはこの進行助手がなかなかやつかいな職種だということを知らされた。夜の明けるまでにロケバスを立てたり、ロケ地ではその筋の人とかけあったり。わたしは映画会社を早々

出演交渉の役がまわってきた。この番組の企画アドバイザー役だった田川博一さん（当時、文藝春秋専務）の差し金だったに違いない。

少年時代の腎臓病の後遺症で頭髪の薄い池島さんは、それを気にしてかそれまでテレビに出演したことがなかった。交渉は難航すると覚悟していたが、しばらく考えたあと、すんなり「いいよ」と受けてもらった。永井龍男、松本清張、村上元三、今東光、吉行淳之介、五味康祐。池島さん出演のおかげで収録当日スタジオには五十名近い芥川・直木賞作家が集まり壮観だった。池島さんのテレビ出演はその後もなく、これ一回きりと聞いている。

それからしばらくしてわたしは結婚することになり、仲人を池島さんにお願ひした。これも即座に引き受けていただいた。

その後数年して二通の案内状がわたしと女房宛に届いた。昭和四十四年暮れのことである。発信人は池島信平。信平さんは、社員、文壇関係を中心に生涯何百組かの仲人をされているが、これは、還暦を機に、媒酌された一同を招いて宴会をしようとしたのであった。宴会当日、会場の新橋第一ホテルは満員の盛況だった。参加者に囲まれ満面の笑みをたたえたあの日の信平さんのあたたかくゆたかな笑顔がわたしは忘れられない。



著者略歴

うえむら ともね
植村 鞆音 エッセイスト

小説家・直木三十五の甥、東洋史学者・植村清二の子として愛媛県松山市に生まれる。1962年早稲田大学第一文学部史学科卒業後、東映を経てテレビ東京に勤務。同局常務取締役、(株)テレビ東京制作代表取締役社長等を歴任。2005年「直木三十五伝」で尾崎秀樹記念・大衆文学研究賞受賞、2007年「歴史の教師植村清二」で日本エッセイスト・クラブ賞受賞。主な著書に「夏の岬」「気骨の人 城山三郎」など。



「渇きのしめり」(2017年・420mm×297mm)



「天駆けるたそがれ」(2017年・7700mm×3160mm)



「錆猫」(2017年・5400mm×3600mm)



「RE:yen」(2017年・2400mm×4200mm)



「おはよう〇〇。」(2015年)

自らデザインした レシート柄の オリジナルグッズ



VIKIさんデザインによる、オリジナルのレシート柄グッズ(①Tシャツ ②足袋 ③マグカップ)。また作品に使用するレシートは随時募集中(送付は、下記アトリエまで)。



アトリエ&ショップ 「WOaW House」が オープン!

数多くの作品を展示したアトリエでは、作品、オリジナルグッズ、行田市特産の足袋が購入できます。

WOaW House (ワーオハウス)
住所: 埼玉県行田市行田7-2 1F
営業: 10:00~16:00 火・水・木休



VIKIさんが下記の展示会に出展します。

INFORMATION

「ViableKids.」

会期: 3/4(日)~3/31(土)
会場: DESIGN FESTA GALLERY WEST1F アートピースNo.13,28
料金: 無料
問い合わせ: DESIGN FESTA GALLERY原宿
TEL: 03-3479-1442
HP: www.designfestagallery.com/

人生の記録=レシートに描く 『レシートアート』

買い物をした際に、手渡されるレシート。その多くに使用される感熱紙は、熱を加えることで化学反応を起こし、黒く変色する性質があります。VIKIさんは、この原理によって出現する模様を巧みに使い、リリカルで力強い作品を創作する現代アーティスト。感熱紙に無数のレシートを貼った巨大なキャンバスを用い、観衆の前に即興で行うライブドローイングは多くのメディアで取り上げられ、他に類を見ない新しいアートとして注目を集めています。VIKIさんの作品には、日時や購入した品目、数量、金額など、レシートに刻まれた生活の記録とともに、その時間を過ごした無数の人々の、多様な物語と感情が詰まっているのです。

——「レシートアート」が生まれた経緯を教えてください。

僕は幼少期、あまり話したり笑ったりしない、内気な子どもでした。その頃よくレシートをポケットに入れていて、爪でこすった熱で変色させることで、感情のはけ口にしていました。また、レンジで温めると黒くなるお弁当のラベルに興味を持ったことも、きっかけになりました。

——完成までには、どのような工程がありますか?

まずは下地となる大きな感熱紙を用意し、印字された文字やロゴなどの大まかな形を基準にレシートを選び、貼っていきます。そこにアイロンをあてフリーハンドで作画していくのですが、細かいところは細いハンダゴテを使ったり爪で擦ったりして、太さの異なる線や濃淡を表現しています。そのほかにアルコールで霧吹きすると化学反応で黒くなる特性を用いて、スブラッシュのような効果も取り入れています。

——黒色やセピア色以外の色は、どのように表現していますか?

女性の表情などを描いた作品も数多くありますが、唇などはクレジットカードでの決済時にもらうピンク色の利用明細や、レシートロールが残りわずかなことを知らせる、赤い帯などを使用しています。そのほかにも寒色系や暖色系など、レシートにはたくさんの種類と色があるので、それらを効果的に組み合わせて作品にしています。



VIKIさん

ういき○青森県出身。バンド、アイドル、モデル活動などの芸能活動を経て、2013年からアイロンと感熱紙を使ったライブアートパフォーマンス(通称:レシートアート)を開始。以後、レシートを使用する現代作家として、個展、アートイベントなどで積極的に新作を発表。今年5月に開催された「デザインフェスタvol.47」では、7メートルを超える巨大作品のライブドローイングを行い、好評を博す。アイロンアートのほか、現代美術、油画、グラフィックデザインなど、枠にとらわれない創作活動を続ける。HP: www.viablekid.com

——モチーフはどのように決めていますか?

ライブドローイングの場合、会場に入るまでは何も考えていないんです。その場の空気やお客さんの顔を見た時に自然とイメージが膨らみ、勝手に手が動く感覚ですね。2日間かけて作品を描くイベントでは、初日と2日目とで表情が変わることもよくあります(笑)。

——作品に使用するレシートは、どのように収集していますか?

多くはイベントなどで作品を観てくれた方からご提供いただいたものです。集めたレシートは、紙の色や大きさ、質感ごとに分類するために、1枚1枚に目を通しています。そこに印字された内容から、「デートでレストランに行ったのかな」とか、その人が過ごした時間と物語を妄想する楽しさもあるんです。

——今後の活動について、教えてください。

ひとつは、海外にもこのアートを広めること。僕の作品は言葉で説明する必要がないので、世界中の人々にも十分楽しんでもらえると思っています。また、電子決済の普及によるペーパーレス化が進むなか、作品を通してレシートの価値と魅力を伝えることで、世の中にレシート文化を遺す一助になればと思っています。



アイロンの熱によって、次第にモチーフが浮かび上がる。「時間の経過によって、さらに変色していく様も楽しんでほしい」とVIKIさん。

利用明細のピンク色をモチーフのリップに使用。

▶ 展示会の開催・出展を通してKPP取り扱い商品の魅力を広く発信。多くのお客さまにご来場いただき、高い関心を集めました。

第6回KPP総合展示会

期間：2017年11月13日(月)～15日(水)
会場：国際紙パルプ商事 本社



本社1階エントランスおよび2階会議室にて、第6回KPP総合展示会を開催しました。本展示会は2006年から隔年で開催しているもので、今回は「未来を極める」をテーマに掲げ、(1)素材を極める (2)パッケージを極める (3)環境を極める (4)社会課題解決を極めるという4つのセッションで会場を構成。紙とその周辺素材を中心にしたさまざまな用途の紹介と、お客さまのビジネスチャンスを広げるソリューション提案を行いました。また、2017年4月に設立した「ハウカンTOKYOビジネスサービス」の訪問看護ステーション支援事業や、サーマルリサイクル事業など、KPPが進める新たな取り組みについてもご紹介しました。

中部支店商品展示会

期間：2017年12月11日(月)・12日(火)
会場：国際紙パルプ商事 中部支店

中部支店が「未来-TSUNAGU-」と題した商品展示会を開催しました。この展示会は、お客さまと当社をつなぐさまざまな商品のご紹介を通じ、ビジネスチャンスを広げる場として毎年開催しているものです。今回も新商品の展示や、加工の提案などを行い、多数の方々にご来場いただきました。



エコプロ2017 ～環境とエネルギーの未来展[第19回]～

期間：2017年12月7日(木)～9日(土)
会場：東京ビッグサイト[東ホール]

環境・エネルギーの総合展示会「エコプロ2017」に出展しました。当社は2009年から毎年出展しています。今回は「明日につながるエコを知ろう」というテーマで、総合循環型社会をめざすKPPを知っていただくためのクイズラリーを行いました。ブースを前年の6小間から9小間に拡大したことで、小中高生からビジネスパーソンまで幅広い方々にご参加いただき、「タウンecom」、 「オフィスecom」、バイオマス発電などKPPの事業、取り組みをアピールしました。



KPPのグループ企業にクローズアップ

深める+

FUKAMERU PLUS



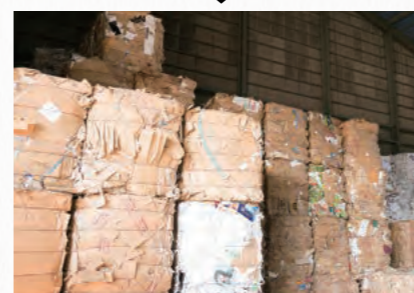
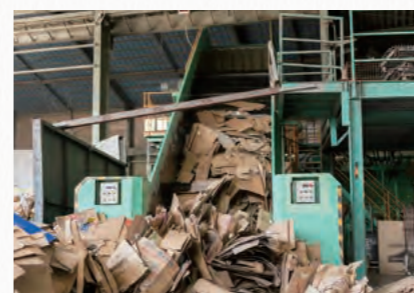
▶ **むさし野紙業 株式会社**

■本社・川越営業所 埼玉県川越市大字下広谷404-1

TEL.049-239-3456 www.musashinoshigyou.co.jp

【埼玉エリア】川越/ふじみ野/和光

【東京エリア】西多摩/北多摩/新木場 【神奈川エリア】横浜/厚木



回収した古紙から、ビニールひもなどの不要物を手作業で取り除いたのち、ペーラーと呼ばれる機械に投入。約1トンの塊に圧縮したのち、番線(針金)をかけて結束し、製紙会社へ出荷する。

KPPグループの企業として、循環型社会の実現に貢献したい。

家庭やオフィス、出版社、印刷・製本工場などから、毎日大量に発生する「古紙」。廃棄物削減と省エネルギー、森林資源保護の観点から紙資源のリサイクル意識が広く浸透し、現在では古紙が製紙原料の60%以上を占めるなど、紙から紙への有効利用が行われています。

むさし野紙業は、1都2県に8営業所を展開する、古紙の回収・処理企業です。小売店や一般企業、自治会など、さまざまなルートを通じて回収した古紙を選別・プレス処理を行い、製紙メーカーに出荷するまでの工程を担っています。「弊社の強みは、KPPという商社が経営する古

紙リサイクル企業であること」。そう話すのは、昨年6月に社長に就任した安立社長。「グループのネットワークを通じて古紙原料を効率的に確保できるのが一番のメリットです。また、KPPのグループ企業であること自体が、お客さまへの信頼の証。表立つことはありませんが、経営業務管理、法令遵守を徹底して行っていることも、お客さまからの評価につながっているのではないのでしょうか」。昨年8月には、環境への取り組みを評価する「エコアクション21」の認証を、本社および全8営業所で取得。さらには個人情報保護の認定取得への準備を進めるなど、社会的

な信用獲得に向けた取り組みを進めています。

むさし野紙業が取り扱う資源は、年間約12万トン。その5割を占める段ボールのほか、雑誌や新聞、印刷製本会社から出る裁ち落とし・損紙など、幅広い品目を扱っています。「古紙の回収量は、紙の出荷量に比例するもの。新聞の購読率低下やペーパーレス化によって全体の取り扱い量は年々減少傾向にあります。海外での需要拡大によって輸出量が増加しています。現在は中国への輸出に頼る部分が大きいですが、その他のアジア各国はまだまだ発展途上。マーケットはますます広がっていくと見込んでい

ます」と安立社長は話します。

スーパーなどの小売店に回収ボックスを設置し、古紙リサイクルを推進する、KPPの「エコモ」事業。「今後エコモの活用を広げる一方で、KPP各営業担当者の方との連携を強め、グループ企業同士のシナジーを発揮したいと思っています」。KPPがめざす循環型社会の実現に向けて、むさし野紙業は大きな役割を担っています。



「安全教育にも力を注いでいます」と話す安立社長。

1/6(土)~8(月・祝)

EVENT

近江神宮 かるた祭

競技かるたの聖地・近江神宮で行われる新春吉例行事。天智天皇が詠んだ小倉百人一首の一番歌が詠まれ、采女装束の4名の取姫がかるたを取る「かるた開きの儀」が執り行われたのち、「高松宮記念杯・近江神宮全国競技かるた大会」が開催されます。



画像提供：近江神宮

DATA

- 会場：近江神宮(滋賀県大津市神宮町1-1)
- 料金：観覧無料(ただし、競技参加は有料)
- 問い合わせ：近江神宮
- TEL：077-522-3725
- HP：oumijingu.org

1/8(月・祝)

EVENT

SHODO 浜離宮恩賜庭園で書き初め体験

DATA

徳川将軍家ゆかりの庭園で、書家の指導のもと、今年1年の抱負、庭園にちなんだ言葉などを書く新春の催し。英語での指導、手本も用意されており、外国人の方でも書道を楽しめます。当日自由参加。

- 会場：浜離宮恩賜庭園 芳梅亭
(東京都中央区浜離宮庭園1-1)
- 料金：無料(別途、入園料が必要)
- 問い合わせ：浜離宮恩賜庭園サービスセンター
- TEL：03-3541-0200
- HP：www.japanpack.jp

1/24(水)~26(金)

EXHIBITION

第1回 販促EXPO[春]



(当社出展)

DATA

ノベルティ・DM・パッケージなどを扱う有力企業・商社が出展する、販促業界最大規模の商談展示会。今年から年2回の開催となり、春・夏向け販促品が揃います。当社も出展します。[小間NO.42-1]

- 会場：幕張メッセ
(千葉県千葉市美浜区中瀬2-1)
- 料金：無料(ただし、招待券が必要)
- 問い合わせ：事務局
- TEL：03-3349-8505
- HP：www.spex.jp/Home_spring

~3/4(日)

EXHIBITION

世界のブックデザイン2016-17 feat.21世紀チェコのブックデザイン

「世界で最も美しい本コンクール」の入選図書と、7カ国(日本、ドイツ、オランダ、スイス、カナダ、中国、チェコ)のコンクール入賞図書約200点を展示。世界最高峰のブックデザインと造本技術を、実際に手に取って堪能することができます。



受賞図書 集合写真

DATA

- 会場：印刷博物館(東京都文京区水道1-3-3 トッパン小石川ビル)
- 料金：無料(地下展示室は入場料が必要)
- 問い合わせ：印刷博物館
- TEL：03-5840-2300
- HP：www.printing-museum.org

Anne Geene & Arjan de Nooy
Ornithology (鳥類学)
de HEF publishers 発行
Jeremy Jansen デザイン

2/14(水)~16(金)

EXHIBITION

コンバーティングテクノロジー総合展2018

DATA

機能性マテリアルや機能性フィルム、接着剤、コーティング剤、不織布、機能紙など、新しい発想による材料とプロセス技術を紹介する展示会。3日間にわたり、機能性材料に関する各種セミナーも開催されます。

- 会場：東京ビッグサイト 東ホール
(東京都江東区有明3-11-1)
- 料金：無料(ただし、事前登録が必要)
- 問い合わせ：事務局
- TEL：03-5657-0761
- HP：convertexpo.com

2/24(土)~3/4(日)

EXHIBITION

絵紙で彩る小千谷のひいなまつり

DATA

ひな人形を飾った部屋一面に約800枚の絵紙(浮世絵)を飾る、新潟県小千谷市の風習を再現したひいなまつり展。女子のすこやかな成長と春の到来の願いを込めて、会場内は賑やかに彩られます。

- 会場：照専寺(メイン会場：新潟県小千谷市平成2-2-37)、小千谷市平成商店街協力店など
- 料金：無料
- 問い合わせ：小千谷絵紙保存会事務局
- TEL：0258-82-2509
- HP：www.niigata-kankou.or.jp

※開館日、開館時間などは、各ホームページにてご確認ください。 ※イベント、展示は、諸事情により変更される場合があります。おでかけの際は、事前にホームページまたはお電話にてご確認ください。



輸送マイルージとCO2排出を抑え、地球温暖化に配慮したライスインキを使用しています。



針金・糊・熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。



国際紙パルプ商事株式会社
KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD.

発行：経営企画本部 経営企画部 CSR・広報課
〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号
TEL (03) 3542-4111 (代)

URL <http://www.kppc.co.jp/>

作る

紙と触れ合い、モノを作る

「PAPERCRAFT on the DESK」

ワンダフルな1年を祈願! 「戌年カレンダー」

あなたのデスクに今年の干支、ワンちゃんが大集合!

カレンダーに合わせてその月の1頭を飾ってもいいですし、

すべてのワンちゃんを並べれば、いつものデスクが楽しくなります。

ワンちゃんは全部で6種類。すべての犬種がわかった人に

ワンダフルな出来事が訪れるかも!?

「作る」vol.34使用紙: OK ボルビザン
(260.0g/m²/王子マテリア株式会社)
印刷適性と加工適性を兼ね備えた高級
白板紙。高い剛性とスッキリとした白さ、
きめ細やかな面感の良さが特徴です。

作り方

完成!

1 抜き型に沿って6つのパーツを切り出します。

2 オモテ面を山折りにして立たせます。

反対に谷折りにすれば、翌月のカレンダーになります。

